

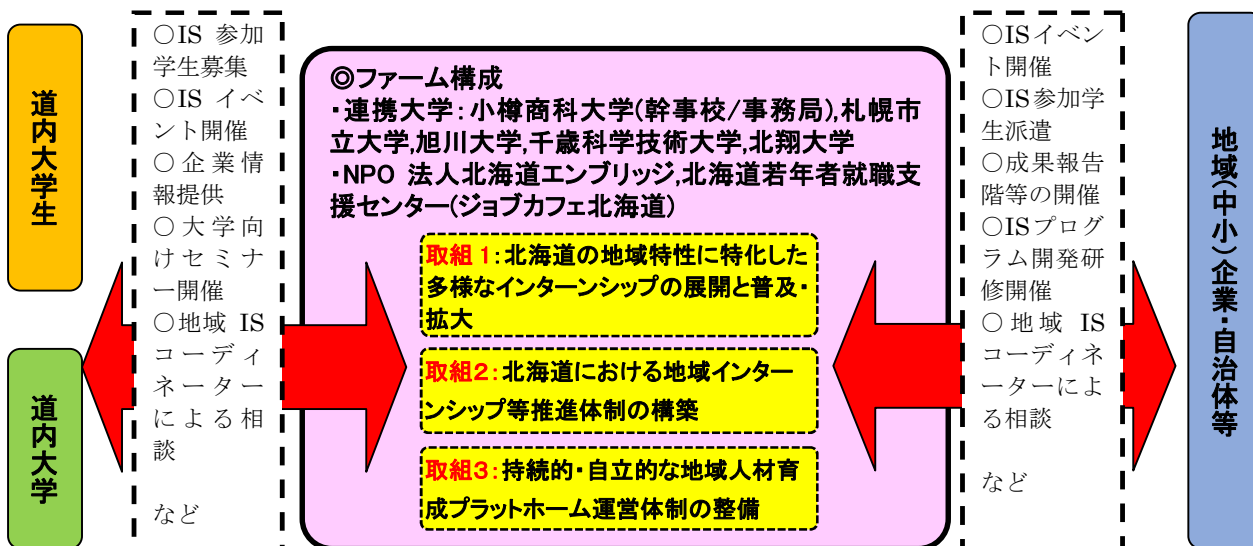
「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」
「大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)」

最終評価結果

大学グループ名	小樽商科大学グループ
取組名称	循環型地域人材育成プラットフォーム【若者が育つ大地：北海道】
地域インターンシップ推進組織名	北海道地域人材育成ファーム
取組担当者	小樽商科大学 商学部 准教授 大津 晶
連携校名(★幹事校)	★小樽商科大学、札幌市立大学、旭川大学、北翔大学、千歳科学技術大学(計5校)
連携したインターンシップ等支援組織等名(団体名・企業名等)	NPO法人北海道エンブリッジ 北海道若年者就職支援センター(ジョブカフェ北海道)

事業概要

本事業では、「取組1:北海道の地域特性に特化した多様なインターンシップの展開と普及・拡大」「取組2:北海道における地域インターンシップ等推進体制の構築」「取組3:持続的・自立的な地域人材育成プラットフォーム運営体制の整備」の3つの取組をテーマに事業を推進し、道内大学生を対象としたインターンシップマッチングイベントの実施(取組1)、企業向けインターンシッププログラム作成研修の実施(取組1)、WEB ポートフォリオによる学生向けインターンシップ情報の提供・参加者への事前研修(取組1)、地域インターンシップコーディネーターの育成(取組2)、インターンシップコーディネーター育成研修会開催(取組2)、道内大学生(全学年)を対象とした起業家育成セミナーや社会人基礎力研修会の実施(取組3)などを行い、インターンシップ等の拡大を図った。



最終評価結果<総合評価> B

《コメント》

当初計画していた北海道地域インターンシップ推進協議会との連携が不調に終わったことが大きく影響し、本事業の推進に関しては厳しい結果となった。補完対応に努力したことは認められるが、当初の計画の甘さは否定できない。参加学生数の増加等についても、幹事校においては一定の成果が見られるものの、大学毎の成果にはばらつきがあり、グループ全体としては目標を達成できていない。また、関連する NPO 法人等での取組に依存したものとなっており、各大学における活動は不十分である。評価も関係団体からの助言に留まり、定量的評価、定性的評価とも、体制整備に大きな課題が残った。

しかしながら、連携が不調に終わるという想定外の状況に真摯に対応しようとした姿勢は認められ、できたことできなかったことを誠実に報告している。地方人材育成コーディネーターの育成や、地域密着型中小企業の開拓が行われたこと、また、一部の事業においては連携大学以外からも参加があったことについては、評価できる。

今後は、NPO 法人での活動に頼り切るのではなく、新たな連携や新たなインターンシップを進め、各大学が主体的に事業を継続する努力を期待する。その際には、幹事校をはじめとする実績校の経験を地域内の他の大学に生かす工夫が不可欠である。